

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

東橋いちい認定こども園

令和2年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 身近な保育教諭や友達との触れ合いを喜び、安心して過ごす
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながらいろいろな遊びをする中で、安心して自分の思いを表現する
- 2歳児 いろいろな遊びや身の回りのことに関心をもって自らかかわり、保育教諭や友達と興味を広げる楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びに興味をもち、自分の気持ちを言葉で表現しながら友達と関わることを楽しむ
- 4歳児 様々な遊びや活動に興味をもち、自ら進んで参加したり自分の気持ちを言葉で伝えたりしながら、クラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、自分なりに考えながら目標や見通しをもって行動することや、いろいろな友達と気持ちや考えを伝え合い協力しながら遊びを進めることを楽しむ

自己評価	評価内容
「B」	<ul style="list-style-type: none">・年度末の各年齢の子どもの育ちを捉えると、概ね「ねらい」は達成されたと考える。・年齢によっては「ねらい」の設定が少し高くなってしまった部分も見られたため、年度の途中での成長段階の確認や、それに合わせたねらいの修正などを行うべきであった。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
<p>① コロナ禍における衛生環境と日常保育の充実</p> <p>【自己評価】 「A」</p>	<p>☆<u>新型コロナウイルス感染予防対策を実施する</u></p> <p>＜衛生環境＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 玄関、保育室、廊下に消毒液(手指用アルコール)を設置 * 園内の多く触れられる場(玄関・トイレ・手洗い場・各ドアノブ・保育室等)の定期的な消毒の実施 * 定期的に窓を開けての換気 * 手洗い後の各自のタオル使用を中止し、ペーパータオルを使用 * 食事時の消毒(机、手指)の徹底 <p>＜日常保育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 休園期間における可能な限りの保育の実施 * マスクの着用(職員・3～5歳児・保護者・来園者) * 手洗い・消毒の徹底 * ソーシャルディスタンスの確保(保育中・食事時) * 3密の回避 * 歌唱の自粛 * 園バス使用時の換気、ソーシャルディスタンスの確保 <p>【評価内容】</p> <p>＜衛生環境について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解や協力のもと、全般的に可能な限りの対策を実施できた。 ・必要な備品(非接触温度計、消毒用品、サーマルカメラ、加湿器等)を徐々に増やすことができ、より衛生環境を整えることができた。 ・職員が協力し工夫しながら、園内各場所の消毒や玩具・遊具の消毒を実施できた。 ・年齢に合わせて園児自らが手洗いや消毒を行えるよう、出来る範囲での指導を行ったところ、自ら気をつける姿勢が見られるようになった。 <p>＜日常保育について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の幼稚園部門の休園期間や保育園部門の登園自粛要請期間(4～5月)には、家庭で楽しめる機会を設けることができた。(保育のZOOM配信、各家庭へ製作キットの配布(3～5歳児のみ)等) ・保護者の理解や協力のもと、健康チェック表の記入と持参、マスクの着用や水筒持参、汗拭きタオルやカラー帽の持ち帰りなど、新たな感染予防対策をとることができた。 ・密を避ける保育内容の工夫を可能な限り実施できた。(出来るだけ戸外であそぶ、戸外での朝の会の実施、戸外遊びの充実、人数が多いクラスの保育を2か所に分けたり遊戯室の広い空間を利用したりする等) ・トイレや手洗い場などの密集しやすい場には、わかりやすい表示を付け子どもたち自身が気を付けられるような環境を用意した。 ・1学期中は歌唱を自粛し、2学期は徐々に感染対策(マスクの着用・同一方向を向く等)を取りながら歌唱を再開させた。 ・送迎バスや園外保育時の園バス移動についても、常時換気することや長時間になる場合は乗車人数を少なくすることやバスの台数を増やす等の配慮を行った。 <p>総合的には、保護者の理解や協力のもと感染対策を実施しつつ、園児の日常の保育環境を出来るだけ守りながら過ごすことができたと考えている。</p>

<p>②コロナ禍における行事の円滑な遂行</p> <p>【自己評価】 「B」</p>	<p>☆<u>実施の判断や実施方法の工夫を行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 行事の趣旨やねらいを重視し、可能な限りの保育の確保 * 緊急事態宣言等の状況に鑑みての判断 * 様々な観点からの感染予防策を講じ、規模の縮小や時間短縮等の工夫により可能な限りの実施 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウィルスの感染状況により、断念した行事（運動会、発表会の保護者観覧、乳児クラス参観日 等）があり、保護者に残念な思いをさせてしまったが、園児に経験させたかった保育内容は減らすことなく、様々な体験は保障できたと考える。 ・ 開催できた行事については、保護者の理解と協力のもと、内容の縮小や人数の制限を行いながら、実施することができ良かった。 ・ 保護者観覧や参加ができなかった行事については、YouTube で動画配信をするなどの対応ができたことは、良かった。 ・ 感染対策のため考えた実施方法が、やってみると良かった面もあり、新たな気付きにつながったことも多かったため、次年度に活かせるように考えている。 ・ 新たな試みも多く、予定通りにできなかったことや保護者へのお知らせが煩雑になり、混乱させてしまったこともあったことが、反省としてあげられる。
<p>③保育環境整備や環境構成の創意工夫</p> <p>【自己評価】 「B」</p>	<p>☆<u>「遊び」の広がりや発展に繋がる環境創りを行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 園庭の整備による魅力の向上 * 遊戯室の環境整備の実施 * 保育室内の玩具の見直しと充実 * 園内研究を通しての保育室内の環境構成の見直し改善 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度保護者からもご意見をいただいていた「園庭」環境の補修(築山のテーブルセット・築山の斜面)や、新たな環境整備(ウッドデッキや多目的の小屋)を行うことができ、園児の遊びが広がったり発展したりと効果が見られた。 ・ 遊戯室にも、新たなコーナーを設置することができ、子どもたちの楽しみが増え、遊びの広がりに繋がったと考える。しかし、設置工事が年末年始となり、遊び始めたのが2月頃からとなってしまったため、特に卒園を控えた5歳児には、存分に遊ぶ機会を設けてあげられなかったことが残念だった。 ・ 今年度は、保育室での遊びの充実に向け、当学園の「玩具選定規準」に基づき年齢に合った玩具を増やしたことにより、遊びの幅が広がった。 ・ 園内研究の取組として、各保育室の環境づくりを見直し、改善することができた。今までの日常の環境を改めて考えることで、子どもたちの遊びがより主体的に行われるようになり効果的だったため、次年度もそれを活かし、より育ちに合わせた遊びの充実を図りたいと考えている。 ・ しかし昨年度に続き、保護者アンケートの回答からみると、園内や園庭の環境改善についてやその場での遊びの様子が、保護者に伝えきれていないと感じた。今年度はさらに、新型コロナウイルス感染予防のため、保護者の行事参加や園見学の制限があったことにより、実際に来園する機会が激減したこともあり、園からの発信の仕方をより工夫する必要があると感じた。

<p>④保護者との連携の推進</p>	<p>☆園理解の強化と保護者からの信頼度が上がるよう努める</p> <ul style="list-style-type: none"> *昨年度末実施の保護者アンケート結果に対する対応の可能な範囲での実施 *コドモンの活用による利便性の強化 *園からの発信の多様化
<p>【自己評価】 「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コドモンを利用し始めて2年目となったため、より利便性を良くするよう、玄関の鍵の開錠ができるようにしたり、行事の参加有無などをアンケート機能で回答してもらったりと、活用の幅が増えたことは良かった。 ・また、新年度早々の新型コロナウイルス感染予防としての休園や登園自粛期間中の家庭への連絡などにも、活用できたことも良かった。 ・新型コロナウイルスの感染予防などの対応として、ZOOM 配信や YouTube の活用ができたことは、園としての新たな発信方法となり保護者にも好評だったため良かった。 ・しかし、コドモン機能の活用が不規則になり、保護者の欲しい情報の提供に繋がらなかったり、利用できる機能を活用しきれなかったりすることがあったため、保護者の利便性をより高めることや、職員の業務負担の軽減にもなるよう、次年度以降の課題としたい。 ・昨年度保護者アンケートで挙げていただいた課題の部分についても、改善出来た部分と改善まで至らなかった部分もあった。コロナ禍で例年のような保育活動ができず変更が多かったことや消毒作業等などによる業務量の増加もあり、改善に至らなかったことが理由にあげられるが、せっかくいただいた意見を反映できずに終わってしまったことが、次年度への課題となった。

4 今後取り組むべき課題

課題	課題設定の理由
<p>コロナ禍での円滑な園運営の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式のもと、今年度の経験を活かしながら園児の日常を保障し、園行事についても可能な方法を探りながら実施できるようにしたい。 ・制限が多い中でも、園の考えや保育の内容を保護者にお伝えしながら園運営への理解を深めてもらえるようにしたい。
<p>保育環境の整備や構成の創意工夫と充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新たな保育環境を整備したり、今ある環境を見直したりすることができたことにより、子どもの主体性を育む「遊び」に必要な環境について考えることができたため、次年度も継続して考え工夫していくことにより、より充実させられるようにしたい。 ・保護者アンケートの結果では、園での取組が伝えきれていないことが感じられたため、発信の方法等を新たに検討しながら継続して取り組みたい。
<p>園と保護者の連携内容の工夫による連携の深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園からの様々な発信が課題と感じられるため、発信方法の検討や改善をし、より伝わりやすくなるための取組を考え実践することで、連携を深めたい。
<p>職員の働き方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を行う上での大切な環境の一つとなる保育教諭それぞれが、よりいきいきと健康的に勤務できるように、様々な視点から日常業務を見直し、改善に努めたい。

